

WRFによる関東域の擬似温暖化実験出力データ(4GCMアンサンブル)[6km]

1. 識別情報

名称	WRFによる関東域の擬似温暖化実験出力データ(4GCMアンサンブル)[6km]
版	ベータ版
略称	KANTO-WRF-ERAint-PGW4en [6km]
メタデータID	WRF_pgw4en_data_over_Kanto_area20230727082054-ja

2. 問合せ先

2.1 データセットに関する問合せ先

名前	筒井 浩行
組織名	東京大学 地球観測データ統融合連携研究機構
住所	日本, 113-8656, 東京都, 文京区, 本郷7-3-1
電話番号	+81-3-5841-6105
ファクシミリ番号	+81-3-5841-6130
電子メールアドレス	tsutsui@hydra.t.u-tokyo.ac.jp

2.2 プロジェクトに関する問合せ先

3. ドキュメント作成者

名前	筒井 浩行
組織名	東京大学 地球観測データ統融合連携研究機構
電子メールアドレス	tsutsui@hydra.t.u-tokyo.ac.jp

名前	藤田 実季子
組織名	海洋研究開発機構
電子メールアドレス	fmiki@jamstec.go.jp

4. データ作成者

名前	藤田 実季子
組織名	海洋研究開発機構
電子メールアドレス	fmiki@jamstec.go.jp

5. ドキュメント作成年月日

2023-07-27

6. データ作成年月日

creation : 2012-12-25

7. データセット概要

7.1 序論

WRFによる関東域の1980年から2010年における擬似温暖化実験出力。水平解像度6kmで境界値と初期値には、気候差分を上乗せしたERA-interimを用いた。気候差分はCMIP3のA1Bシナリオで、miroc3_2_hires,gfdl_cm2_1,mri_cgcm2_3_2a,csiro_mk3_0の4GCMアンサンブル平均における、1981-2000年と2081-2100年の差により求めた。

7.2 トピックカテゴリ (IS019139)

climatologyMeteorologyAtmosphere

7.3 時間情報

開始日	1980-10-01
終了日	2010-09-30
時間分解能	Hourly

7.4 地理的範囲

北限緯度	38.5
西限経度	135
東限経度	143
南限緯度	33.5

7.5 グリッド

次元の名称	次元の分割数	次元の解像度
row	124	0.0001 (deg)
column	96	0.0001 (deg)
time	9505	hourly (minute)

7.6 地理情報を識別する名称

7.7 キーワード

7.7.1 データセットに関連するキーワード

キーワードタイプ	キーワード	シソーラス名
theme	Atmosphere > Precipitation > Precipitation Amount	GCMD_science

theme	Models > GCM	GCMD_platform
theme	Climate	GEOSS
place	Asia > Eastern Asia > Japan	Country

7.7.2 プロジェクトに関連するキーワード

7.8 データセットに関するオンライン情報

7.9 データ周辺情報

7.10 データ配布情報

配布識別名	配布バージョン	配布に関する説明
binary		

8. 系譜情報

8.1 データ処理 (1)

8.1.1 データセット作成に関する加工過程や履歴の説明

領域気象モデルとして米国国立大気研究所(NCAR)を中心として開発されたWeather Research and Forecast (WRF) model、領域気象モデルの初期値・境界値として欧州中期予報センター(ECMWF)で作成された再解析データERA interim (6時間ごと) から擬似温暖化手法を用いて、関東周辺域の将来予測実験を行った出力結果である。

8.1.2 元データの情報

データ起源の引用名	加工するデータ起源の説明

9. 品質等

10. 利用規約

10.1 データ提供者によるデータ利用規約

本データセットの内容の再配布を許可無く行ってはならない。また、商業的目的に利用してはならない。本データセットを用いて得られた成果には、本データセットを利用したことを明記すること。データセットの作成者は、本データセットを利用したことによって発生したいかなる損失、損害に対しても責任を負わない。

10.2 プロジェクトによるデータ利用規約

11. ライセンス

12. 謝辞の記載方法

12.1 データ提供者の指定による謝辞の記載方法

利用者は、DIASデータセットを利用した学会発表・論文発表・誌上发表・報告等を行う場合は、”利用したデータセットは、文部科学省「気候変動適応研究推進プログラム(RECCA)」の枠組みのもとで作成された。”の引用文を謝辞として明記すること。また、データ提供者が示す謝辞の引用文がある場合は、それも併記すること。

12.2 プロジェクトの指定による謝辞の記載方法

13. 参考文献